



紙用元下
報覧次下
広関ニコ



市ホームページ



フェイスブック



Instagram

発行／三田市役所 〒669-1595 兵庫県三田市三輪2-1-1 ☎079-563-1111 (代表)
編集／秘書広報課 ☎079-559-5040 FAX079-563-1366 19 秘 8-009 他



再生紙を使用しています



公園を守り育てる活動 広がっています！

「わたしたち」で 公園をきれいに 制度の活用で もっと取り組みやすく

三田市には、160カ所を超えるたくさんの公園があります。現在、市内では公園をみんなの場所として大切に守り、育てる活動が広がっています。

これまで公園の清掃活動などの軽易な作業は地域で行われてきました。昨年度からは、新たに機械を使った除草作業の取り組みが進められており、今では49カ所の公園で行われています。

この取り組みは、地域の団体が、公園の維持管理に係る市との協定制度を活用して行っているものです。市は、作業に必要な費用の一部を支援しながら、除草機械の貸し出しや刈った草の回収などを行っています。

地域にある身近な公園を、地域の「庭」のように、皆さんで守り育てることで、もっと身近で使いやすい公園に。ぜひ、この取り組みにご参加ください。

Interview 除草作業に取り組んでいる地域に、苦労話や取り組んでよかったこと、地域での意識や行動の変化などについてお話を伺いました。

どんなときも助け合い。 大好きな弥生が丘を子どもたちの笑顔でいっぱい



ふくい ひろし 福井 裕 さん
弥生まちづくり協議会 会長
さくら のびまさ 笹倉 延理 さん
弥生が丘自治会 会長

「自分たちでできることは、自分たちで」—その想いはあるものの、「本当に自分たちで公園の手入れを続けられるのか」とはじめは不安の声もありました。そこで行われた「試し刈り」。15人ほどが集まり、「これなら自分たちでもできそう！」の一声が。そこから徐々に皆さんの理解を得て、自治会の全面的な協力のもと連携して取り組むことができるようになりました。今では、作業後にお茶を飲みながらわいわいと話をするのも楽しみです。公園がきれいになるだけじゃなく、こうした時間の中で新たな交流や活動のきっかけも生まれています。何より、きれいになった公園で子どもたちが楽しそうにサッカーをしたり、遊ぶ姿を見るとやっぱり嬉しくて。「誰だって、助けてもらう時が来る、できる今、助けあえる喜びを」—開始から1年以上が経過した今も参加者が増えるなど、そうした意識が地域で広がっていることを感じます。助け合いは、相手だけでなく、自分自身の生きがいや喜びにつながる。だから大変な作業も、楽しんで続けられるんです。これからも大好きな三田、大好きな弥生が丘をみんなの力でより良くしていきたいです。



大変なことだらけ。 それでも自分たちで地域の宝物を守りたい

あかしあ台には多くの公園があります。かつては、雑草が生い茂り、美観が悪く、防犯面でも不安を感じていました。そんな中、この協定をきっかけに地域で除草作業をすることに。でも、やってみるとこれがかなり大変。草の多い夏は暑く、機械を借りたり刈った草を運ぶのも一苦労。何より、予定を合わせて集まるのが難しいんです。それでも何とか協力し合い、取り組みが定着してきました。また今年度から、立派な遊具が雑草で覆い隠されていたあかしあ台緑地も手掛けることに。地域広報「まち協ニュース」で協力を呼びかけると、今まで活動に参加したことのない多くの人が集まってくれました。「地域の公園を自分たちで守りたい」という思いを持った人がこれだけいたということですよ。その思いがこうしてカタチになっていることが嬉しいです。大変なこともありますが、作業中にお茶を持ってきてくれる人がいたり、地域に関わる団体の情報共有を図ることもでき、互いの理解につながっています。地域にある公園を「宝物として輝かせられる」か「宝の持ち腐れ」としてしまおうのか、それは地域に住む「自分たち」次第だと思っています。



おかひら よしたか 岡村 佳高 さん
あかしあ台小学校区まちづくり連絡協議会 会長



あなたの地域でも！ ～協定団体募集中～

新たに公園の除草作業に取り組むまちづくり協議会や区・自治会などの地域団体を募集しています。協定の概要など、詳細はお問い合わせください。



問い合わせ＝公園みどり課
(559-5110 FAX 559-7130)

もう一つの特徴として、自分たち若者が地域で一定の役割を果たしていきたいという提案が多くあつたことが挙げられます。例えば、「中学生から高齢者まで集う全世代議会の創設」や「子どもや若者が得意なことを高齢者に教える教室の実施」などの提案です。高校生自身が主権者教育の重要性を認識しながら、地域の中で主体的に活動したいという思いを私たち大人はしっかりと受け止めなければいけません。三田の未来を担う若者たちが、学校の中だけでなく地域に飛び出して、世代を超えたつながりの中で民主主義を体験しながら、地域を元気にしてくれることを期待しています。

2月2日、市内の学校に通う20人の高校生が参加して、市議会議場5回目の「高校生議会」が開催されました。今年の特徴の一つとして、主権者教育に関する質問がいくつあつたことが挙げられます。それらの質問に対し、私は、①自分たちが暮らすまちを知り愛着を持つことからはじめ②視点を広げて民主主義や民主政治の基本的な考え方を学び③世代や価値観が異なる相手の意見を聴くとともに相手に自分の考えを伝えながら、全体の意見をまとめていく経験を多く積み重ねていくことが、小学生から高校生までの主権者教育の基本ではないかと答えさせていただきました。

学校から地域へ、
世代を超えて！



三田市長 森 哲男

市長の「ほっとトーク」
森のひと言

人口と世帯の動き 人口 111,719人 男 54,184人 女 57,535人 世帯数 46,447世帯 -2月1日現在-
前月比(194人減) (138人減) (56人減) (72世帯減) ()内は前月比

広報紙は(公社)三田市シルバー人材センターが全戸 公益社団法人(平日9時～17時30分)
配布しています。配布に関する問い合わせは右記まで。 三田市シルバー人材センター

0120-237519

音声・動画【手話・字幕】で
くらしの情報をお届け！

「ユニバーサル」広報

